

産業構造審議会保安・消費生活用製品安全分科会第11回高圧ガス小委員会（議事要旨）

日時：平成29年3月23日（木） 15:00～17:00

場所：経済産業省別館2階 227・231・235会議室

議題

1. 高圧ガス事故の状況について
2. 業界団体における自主行動計画のフォローアップ等
3. 高圧ガス保安のスマート化について
4. 耐震対策の現状と今後の対応について

出席者

小川委員長、明石氏（石川委員代理）、市川委員、伊藤委員、勝田委員、熊崎委員、古川委員、首藤委員、穂積氏（杉原委員代理）、多田委員、東嶋委員、成田委員、間委員、松尾委員、松澤委員、三浦委員、武藤委員、柳委員、矢端委員、吉川委員

議事概要

1. 高圧ガス事故の状況について
 - 1) 事務局より資料1に基づき説明。
 - 2) 委員からの主なご発言。
 - ・資料1 6ページの災害の事故の原因を示すグラフについて、原因の中で一番気になるのは誤操作・誤判断。どのような誤操作や誤判断が事故の基になったのか、データベース化をして次の世代に伝えるための仕組みはあるのか。

→（高圧室）事故の状況に関するデータベースは、高圧ガス保安協会に取りまとめている。また、大きな事故については、年間10件位について詳細な事故原因等の分析をしている。これらを公開することで横展開を進めており、今後もしっかりと取り組んでまいりたい。
2. 業界団体における自主行動計画のフォローアップ等
 - 1) 石油連盟より資料2に基づき、石油化学工業協会より資料3に基づき、日本自動車工業会より資料4に基づき説明。
 - 2) 委員からの主なご発言。
 - ・資料4で、日本自動車工業会から車検がない二輪車に関して、容器再検査期限切れのものに充填されないよう業界及び充填事業者の方々の取組をご説明頂いたが、フォー

クリフトについても車検がないものがあると聞いている。必要に応じて経済産業省としても対応について検討してほしい。

- ・資料4添付資料 3ページに容器再検査の方法に関する広報活動について記載があるが、一方通行のものではなく、消費者がしっかりと理解できるよう丁寧な説明を、時間をかけて行っていただきたい。

3. 高圧ガス保安のスマート化について

1) 事務局より資料5に基づき説明。

2) 委員からの主なご発言。

- ・資料5で説明のあったスーパー認定事業所の創設やリスクアセスメント・ガイドラインの作成・講座開催等においては、高圧ガス保安協会が非常に尽力している。一方で、これらを普及させていくためには、一つの組織で行うには限界もある。今後は、民間事業団体などの力も借りながら幅広く進めていってほしい。
- ・事業所全体にリスクアセスメントの重要性を浸透させるためにも、早急にガイドラインを普及させ、実践的な講座を沢山行ってほしい。また、国の資格で学べる内容の中にリスクアセスメントの解釈の仕方等を盛り込むことで、より新しいリスクアセスメントの知見が継続的に産業界に根付くと思うので、検討してほしい。

・

4. 耐震対策の現状と今後の対応について

1) 事務局より資料6に基づき説明。

2) 委員からの主なご発言。

- ・神奈川県では、地震等で設備が緊急停止した場合に余剰ガスを処理するフレアスタックの耐震性等について調査する予定。調査結果が出た際には、国にもご報告したい。

お問い合わせ先

経済産業省産業保安グループ高圧ガス保安室

電 話：03-3501-1706

FAX：03-3501-2357